

编著◎张韶岩

中日間の異文化コミュニケーション能力を高めよう

# 中日 跨文化交际 实用教程



**中日跨文化交际12大策略 步步为营 招招制胜**

寒暄、礼节、道歉、安慰、说服、赞扬、谩骂、  
表明反对意见、讲价、开场白、随声附和、手势交流



华东理工大学出版社  
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

编著◎张韶岩

中日間の異文化コミュニケーション能力を高めよう

# 中日 跨文化交际 实用教程



**中日跨文化交际12大策略** 步步为营 招招制胜  
寒暄、礼节、道歉、安慰、说服、赞扬、谩骂、  
表明反对意见、讲价、开场白、随声附和、手势交流

### 图书在版编目(CIP)数据

中日跨文化交际实用教程/张韶岩编著. —上海:华东理工大学出版社,2012.3  
ISBN 978-7-5628-3231-7

I. 中... II. 张... III. 比较文化-研究-中国、日本-汉、日 IV. G04

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2012)第 010269 号

## 中日跨文化交际实用教程

---

编 著 / 张韶岩

策划编辑 / 苏 靖

责任编辑 / 车银儿

责任校对 / 陈孟昀

插 图 / 林良凤

封面设计 / 戚亮轩

出版发行 / 华东理工大学出版社有限公司

地 址: 上海市梅陇路 130 号, 200237

电 话: (021)64250306(营销部)

(021)64250787(编辑室)

传 真: (021)64252707

网 址: [press.ecust.edu.cn](http://press.ecust.edu.cn)

印 刷 / 常熟新骅印刷有限公司

开 本 / 710mm×1000mm 1/16

印 张 / 10.25

字 数 / 207 千字

版 次 / 2012 年 3 月第 1 版

印 次 / 2012 年 3 月第 1 次

书 号 / ISBN 978-7-5628-3231-7/H·1184

定 价 / 28.00 元

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

## まえがき

近年、日本語の話し言葉教育においては、コミュニケーション能力の養成が目標とされ、会話特有の技術やストラテジー教育が重要視されるようになってきた。

コミュニケーション・ストラテジーという言葉は、二つの意味を含んでいるようである。一つはコミュニケーションに障害が生じそうな、または生じた場合に対処する方法を指している。もう一つは、コミュニケーションを円滑に運ぶための言葉遣いを指している。例えば、「あのう」、「すみません」などは時には相手の注意をこちらに向けるストラテジーとなる。

コミュニケーション・ストラテジーは、日本語と中国語のあいだに異なっているところが少なくないと思う。中国人の日本語話者の日本語のロールプレイはどこかに違和感を感じさせるのはその背後にやはり母国語の影響によるものが多いからである。つまり、日本語のコミュニケーションにも中国語のコミュニケーションにもそれぞれのストラテジーがあるのではないかと考えられる。実は、この面での違いは、教科書にはあまり触れていないために、中国人の日本語学習者が戸惑いを感じやすいところであり、誤解や摩擦が生じるところでもある。

本書は、会話の資料収集およびアンケート調査をし、そして、その結果を踏まえ、日本語のコミュニケーション・ストラテジーの特徴を検討してみた。それと同時に、中日コミュニケーションのストラテジーの類似点と相違点の一端をも明らかにしたい。対照というものは、特に学生の興味を引き起こすことができるようである。おそらく対照によって日本語の姿がもっと把握しやすいかと考えられる。

本書においては、コミュニケーションを目的として行われる言語行為は、「あいさつ」、「謝罪」、「慰め」、「反対意見表明」、「貶し」、「説得」、「値切り」などの項目が含まれる。「あいさつ」、「謝罪」のほかに、いずれも、教科書にはあまり触れていない領域であるが、実際のコミュニケーションを深く進め

る際によく行われる言語行為である。そして、言語行動についての決まり言葉としての前置き、会話をスムーズに進めるためのストラテジーとしてのあいづち、また、コミュニケーションに大きな役割をはたしている非言語コミュニケーションにも言及されている。その意味で本書の内容をいろいろな形で日本語教育の現場にも活用されるかと期待している。

中国にいる日本語学習者が、生きた日本語と出会うのはそう簡単ではない。絶えず変化し、多様化している日本語の実際を少しでも紹介しようという意図で、アンケートの回答あるいは映像資料の中から一部分選んで最後に添付し、生の日本語を習う資料としてご参考になっていただきたい。

本書をまとめるにあたって、数多くの優れた先行研究を参考にさせていただき、お礼を申し上げたいと思う。

本研究に際して、日本桜美林大学の教授佐々木倫子先生、日本国立国語研究所の早田美智子様、長いあいだご教示していただいた川井誠一先生から貴重なコメントを賜った。また、はじめから終わりまで原稿をチェックしていただいた早川正恭先生にも厚くお礼を申し上げたい。

質問紙調査の際に貴重な時間をさいてご協力いただいた黒田勉様、島田薫様、柴田勝美様、横田葉子様をはじめとする中日両国のすべての皆様に感謝したい。また、本書執筆に際して常に暖かく見守り導いてくださった華東理工大学出版社の蘇靖様にお礼を申し上げたい。

中国人は「親しきにも礼儀なし」というように言われても、やはり“謝謝”という言葉をずっと支えてくれた家族にも送りたい。

著 者

2012.1

# 目 次

<b>第1章 あいさつのストラテジー</b> .....	1
1. あいさつの定型と自由	
2. 日本語に通じない中国語のあいさつ習慣——呼称もあいさつ	
3. 中国語に通じない日本語のあいさつ習慣——過去への言及および「万歳」もあいさつ	
4. 中日両言語のあいさつ言葉の応用実態対照——退勤や退社時のあいさつ言葉	
<b>第2章 ポライトネスのストラテジー</b> .....	10
1. ポライトネス	
2. 日本語のポライトネスと中国語のポライトネス	
3. 中日両言語におけるポライトネスの私的領域の認識差	
<b>第3章 謝罪のストラテジー</b> .....	20
1. 簡単に謝る日本人と簡単に謝らない中国人	
2. 中日における謝罪の認識差	
3. 日本のマナーに関する本から日本語の謝罪のストラテジーを習おう	
<b>第4章 慰めのストラテジー</b> .....	30
1. 調査から見た中日両言語における慰めのストラテジー	
2. 調査から得た生の日本語の慰めのストラテジーを習おう(回答抜粋)	
<b>第5章 説得のストラテジー</b> .....	50
1. 調査から見た中日両言語における説得のストラテジー	
2. 調査から得た生の日本語の説得のストラテジーを習おう(回答抜粋)	
<b>第6章 褒めのストラテジー</b> .....	61
1. 日本語の褒め言葉	

2. 日本語における褒めの落とし穴
3. 性別による褒め言葉と日本語の褒め言葉リスト

**第7章 貶しのストラテジー** ..... 76

1. 種類が共通する中日の貶し言葉
2. 日本語にない中国語の貶し言葉
3. 中日の貶し言葉の対訳

**第8章 反対意見表明のストラテジー** ..... 97

1. 日本語における反対意見表明の常套のストラテジー
2. 調査から見た中日両言語の反対意見表明
3. 調査から得た生の日本語の反対意見表明のストラテジーを習おう(回答抜粋)

**第9章 値切り交渉のストラテジー** ..... 117

1. 日本的な値切り交渉のストラテジー
2. 中国的な値切り交渉のストラテジー
3. 郷に入れば郷に従え

**第10章 前置きのストラテジー** ..... 125

1. 前置き表現の機能
2. 前置き表現の決まり文句
3. 学習者の理解しがたい日本語の前置き表現

**第11章 あいづちのストラテジー** ..... 136

1. 日本語のあいづちの概観
2. 中国人が陥りやすい「中国式日本語のあいづち」

**第12章 非言語コミュニケーションのストラテジー**  
**——ハンド・ジェスチャー**..... 146

1. 日本人のハンド・ジェスチャー
2. 中国人に通じない日本のハンド・ジェスチャー
3. 日本人に通じない中国のハンド・ジェスチャー

# 第1章 あいさつのストラテジー

◇ 日本では、時と場所と状況に応じる決まり文句のあいさつがたくさんある。それに対し、中国では、誰にどんなあいさつをするか、臨機応変の対応が必要である。つまり、定型表現に依存するか、自分なりの自由表現を使おうとするかで中日のあいさつに違いがある。

◇ 中国語では呼称だけであいさつになるが、日本語ではこういうあいさつの習慣がない。

◇ 日本語では過去への言及は重要なあいさつであるが、中国語では、原則として、後日、過去にさかのぼる必要がない。





あいさつとは「日常の人間関係を円滑に取り運ぶための、一定の形式をもった、なかば儀礼的な相互行為」とか、「人に会った時や別れる時などに取り交わす礼にかなった動作や言葉」である。あいさつには、言葉によるあいさつと動作によるあいさつがある。本章においては、あいさつ言葉を中心に検討してみたい。

どのような言葉があいさつに用いられるかは、その文化圏の言語習慣に依存する。文化圏ごとに決まったあいさつ習慣がある。そして、どの文化にも、あいさつは、相手に敬意・親愛の意を示す行為で、対人関係を円満にし、社会生活を円滑にする働きをする。しかし、異文化コミュニケーションの場合、簡単そうに見えるあいさつも、実は誤解を招く例も稀なことではない。日本語と中国語は一衣帯水の隣国の言語でありながら、あいさつ習慣は異なったものが多くて油断できないのである。

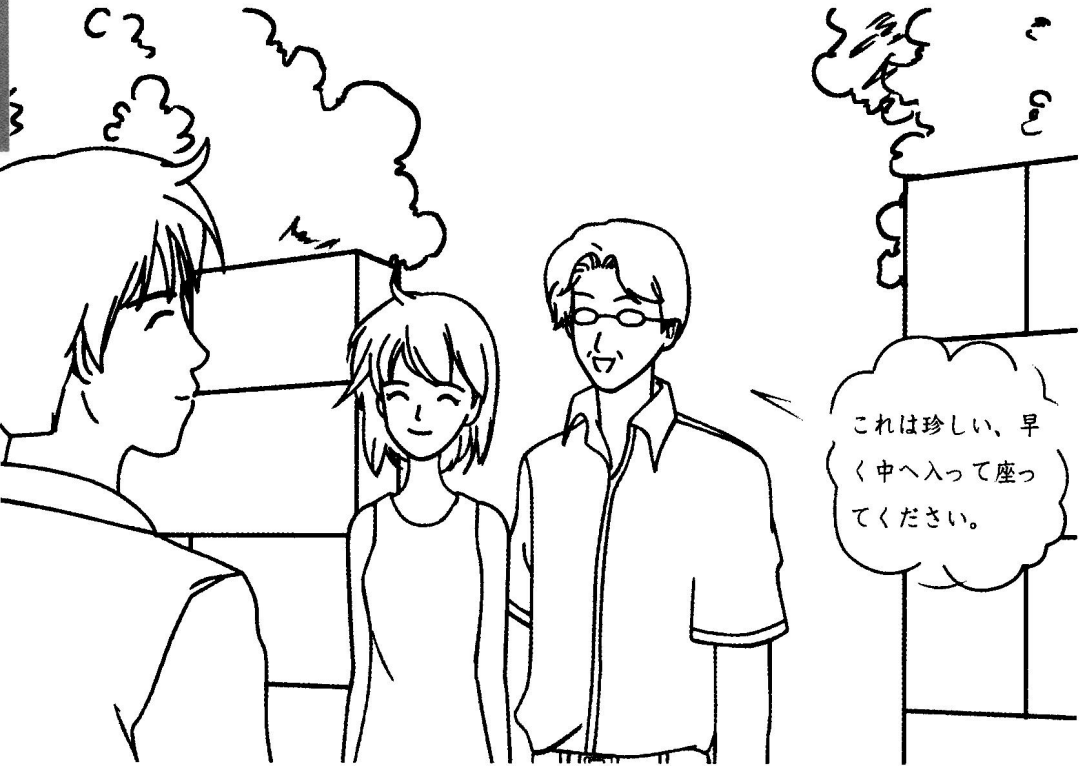
## 1. あいさつの定型と自由

日本語のあいさつには決まり文句が多い。朝、昼、晩、就寝、帰宅にあたっての決まった言葉があるばかりでなく、他家訪問や初対面の応対にも定型の用語がある。日本語では、さまざまな場面でさまざまな定型的なあいさつ言葉がある。

それに対し、中国語には定型的なあいさつ表現が少ない。初対面、そして朝、昼間、就寝、訪問、帰宅にあたっての決まった言葉はほとんどない。日本人の書いた中国語学習者向けの教科書には“你好!”(こんにちは。)、 “早上好!”(おはようございます。)、 “晚上好!”(こんばんは。)、 “中午好!”(こんにちは。 )というようなあいさつが教えられているが、実際は“你好!”を除いて、“早上好!”も “晚上好!”も、いずれも都市部における洋風の表現であって、定着したあいさつではない。

また、帰宅した時、日本語は「ただいま。——お帰りなさい。」という決まった言葉で応対している。中国語ではとくに決まった言い方はない。“我回来了。”(ただいま。)、 “今天累死我了。”(きょう疲れた。)、 “我去超市了。”(スーパーへ行ってきた。)のように、出かけて何をしたかを言ってもよい。迎える側も、“今天回来得早啊。”(今日は早いね。)とか、“你买什么了?”(何を買ったの。)、幼稚園に通っている子供に“今天表现好吗?”(きょうはよくできたか。)とかいうことで、相手の行為を確認し、「お帰りなさい。」に替える。

訪問する時の言葉は、日本語では、客と主人が、それぞれ「ごめんください。——いらっしやい。」というようにあいさつを交わしてもよい。中国語には、やはり定型的な表現はない。例えば、久しぶりの再会であれば、“稀客稀客，快屋里坐！”（これは珍しい、早く中へ入って座ってください。）、“嗨，稀客稀客，今天刮了什么风，把你给吹来了？”（あ、これは珍しい、今日はまたどういう風の吹き回しかな。）とかいうことになる。しかし、電話が普及するにつれて、訪問する場合、前もって電話で訪問を知らせられるので、従来のユニークなあいさつも消えつつある。



中国語のあいさつの特徴は、日本語に比較すると、自由である。「中国は相手が今していることを臨機応変にするのが必要だ」と日本の研究者にも指摘された。まさにそのとおりである。出かけようとする人に、“去哪儿？”（どちらへ。）、“出去啊？”（お出かけですか。）、“买东西去啊？”（買い物に行くの。）とあいさつする。散歩をしている人に、“您在散步啊？”（散歩ですか。）、運動している人に、“您在锻炼啊？”（運動してるんですか。）などとあいさつする。また、“你吃饭了吗？”（ご飯、もう食べたか。）が食事時のあい

さつとして、昔ほど頻繁には使われなくなっているが、まだ根強い。また、あいさつのあとに軽い会話を付け加える場合も多い。例えば、“买东西去了？今天东西贵吗？大白菜多少钱一斤？”（買い物に行ったの。今日は高いですか。白菜はいくらですか。）のように軽い会話や情報の交換をする。こういう軽い会話もあいさつの働きをしている。

定型的なあいさつといえば、“你好！”ぐらいであろう。“你好！”は初対面の人や朝昼晩でも使えるあいさつである。『月刊日本語』（2009/09）の「中国人・韓国人の不思議」というコラムに、中国人はあまりニイハオとは言わない、ニイハオと言ったら、日本人と見破られた、というような笑話を書いてあるが、実は、人間関係が薄くなっている現代の中国の社会では、“你好！”という定型的なあいさつの使用が増える一方で、すでに定着していると言えるのではないか。

また、日本語では、よく他人への「共感」や「感情移入」を肯定的にとらえる定型的なあいさつをする。「おかげさまで。」という言い方はこのような例の一つである。例えば、病状を尋ねる人に中国語では“我已经好多了。”というのに対し、日本語は普通「おかげさまで、だいぶよくなりました。」と、また、息子が大学に受かったことを、「おかげさまで、息子も大学に受かりました。」というのである。

おかげさまは、(多く「おかげさまで」の形で)他人から受けた助力や親切に対して感謝の意を込めている語である。

「おかげさまで」という言葉は、実際はお世話になっていない場合にも使うので、お世話になっていないのに言うのはいかにも皮肉めか、建前だけの言葉ではないかと中国人は受け止めやすい。しかし、ほとんどの日本人は「おかげさまで」について抵抗なく使っているようである。

2007年2月に、NHK放送文化研究所が「直接的にお世話になっていない人に対して『おかげさまで』と答えることについて、どう思いますか。」と質問をした。20代では「問題ある」と答えた人が他の年代と比べてやや多くあったが、83%の人が「問題ない」という回答であった。

したがって、日本の社会では、いろいろな決まり文句を知っていて、時と場所と状況に応じて、適切に使うことが重要である。中国語のあいさつは具体性に富んでいて、いかに自分なりの臨機応変の言葉で応対するかが大切なことである。

## 2. 日本語に通じない中国語のあいさつ習慣——呼称もあいさつ

中国語では相手の名前を呼ぶことで、あいさつになる。日本語では、相手

の名前を呼ぶだけではあいさつにはならない。この点について、日本人の中国語の研究者の上野(1988)<sup>①</sup>も相原(2007)<sup>②</sup>も気付いた。相原(2007)は、「相手に呼びかける、というのは、中国語ではとても重要なあいさつ行為です。相手の名前を呼ぶ、それだけで実は立派なあいさつなのです。」と指摘した。

中国のあいさつでは、相手の名前を呼ぶほかに、親族呼称もあいさつになる。例えば、血縁関係や縁戚関係のない、隣近所の人や道行く人へ“叔叔”、“阿姨”、“大爷”、“奶奶”等と呼んで、あいさつを交わすことは、よく見かける風景であろう。

日本という社会では、親族呼称そのものは、特に「おじいさん」、「おばあさん」のような言い方は、自分の孫などから呼ばれる時に用いられるが、血縁関係のない人から「おじいさん」、「おばあさん」と呼ばれることは少ないようである。

初めて筆者が日本に来た時のことであった。住まいはある留学生会館で、館長は60代か、70代の年配の方であるが、クラスメートたちは留学生会館に到着した途端に、異口同音に迎えてくれた館長のことを「おじいさん、おじいさん」と呼んでいた。敬っているつもりで呼んでいたに違いないが、同行の国際交流基金の方に、これでは失礼だと言われ止めてしまった。館長本人は「平気、平気」と言っていたが、たいていの日本人は親族呼称で呼ばれるのにかなりの抵抗があるようである。

中国語の「おじいさん、おばあさん」は、年長者を敬う時に普通に使われる呼称である。これは、古来儒教が「長幼の序」を重んじ、年配者を大切にしてきた中国の伝統によるものと言われる。

また、中国の小学校を見学に来た20代ぐらいの日本の若者も、「おばさん」、「おじさん」と小学生に呼ばれたりして、びっくりしたという話もある。中国では実年齢にかかわらず「おばさん」、「おじさん」あるいは「おばあさん」、「おじいさん」などと呼ばれるのは敬意表現になるが、実年齢より若く見られることを喜ぶ日本人にとっては、ショックを受けるに違いない。

しかし、言葉は常に変化している。すべて急速に変化している今の中国でも、多くの人が若く見られることを喜ぶのであろう。もともと、子供が若者を「おばさん」、「おじさん」と敬って呼ぶのだろうかという場面では、今も、「お姉さん」、「お兄さん」と呼ぶようになる傾向が見られる。

あいさつは子供のころからしつけられているのである。実際、子供へのあいさつ教育から中日の差異が見られる<sup>③</sup>。知人や知らない人に会ったら、日本の子供は普通大人に「こんにちはと言いなさい。」、「おはようと言いなさい。」というように教えられているが、中国では、普通“叫叔叔”(おじさんと

呼びなさい。）、“叫阿姨”（おばさんと呼びなさい。）、“叫奶奶”（おばあさんと呼びなさい。）、“叫爷爷”（おじいさんと呼びなさい。）というように教えられている。ただ、もともと「おじさん」、「おばさん」と呼ばれる人を、これからは、「お兄さん」、「お姉さん」と呼ぶように教えられるのではないだろうか。だれでも若く見られたいという心理が働いているからである。

そのほかに、職業に関する敬称もあいさつになる。例えば、“李老师”（李先生）、“张教授”（張教授）、“王市长”（王市長）、“陈总”（陳社長）などと呼ぶだけでいい。

こういうあいさつの習慣が日本語にはない。例えば、道で田中という人に会ったとする。微笑んで「田中さん」または「先生」、「部長」と呼んだだけですれ違ったら、相手はきっと戸惑うのだろう。呼称のあとに、かならずあいさつ文が付いていくのが、日本語のあいさつの習慣である。

### 3. 中国語に通じない日本語のあいさつ習慣——過去への言及および「万歳」もあいさつ

#### (1) 過去への言及

日本語では、過去へ言及するというようなあいさつ言葉が実に発達している。「先日はご馳走さまでした。」、「この間はどうも。」、「その節は(いろいろ)お世話になりました。」などなど。

例えば、日本人は数日前、あるいは1、2週間前に、世話になったり、面倒をかけたたりした人に再会した場合、「先日はお世話になりました。」と、数日前あるいはそれ以前にご馳走になった場合でも、「この間は、ご馳走様でした。」、「この間は、ありがとうございます。」とわざわざ取り上げていうことが多い<sup>④⑤</sup>。

過去へ言及する言葉としては、お礼を言う言葉だけでなく、「先日は失礼しました。」というような謝罪めいたあいさつもある。日本人は知人や仕事上の付き合いをしている人たちと再会した場合に、よく「先日は失礼いたしました。」とあいさつすることがある。言われた相手もたいていは、「いえ、こちらこそ失礼いたしました。」と応じる。

また、前日に一緒に食事(たとえワリカンであっても)や買い物すれば、次の日に「昨日は、お疲れ様でした。」、「先日は楽しかったですね。」などと言って、お互いに一緒に過ごしたことを振り返る。つまり、過ぎ去ったことについて、再び会った時に、もう一度取り上げていうあいさつ習慣がある。

「先日はどうも。」は、そのあとに「失礼しました。」や「ありがとう(ございました)。」、「楽しかったです。」、「お疲れさまでした。」などが省略された

ものだと考えられる。「どうも」はまさに日本語の万能語のような存在である。

後日、黙って何も言わなければ、「非常識だ」とか、「失礼だ」といった印象を相手に与える恐れがある。一方、日本人の過去の出来事について何度も言及することは、中国人には、水臭いと感じやすい。

過去への言及によって、共通の経験、共有の経験があるということを確認する。そして、お互いの連帯感、同じ経験を持ったという気持ちを強める。

過去のことというと、いつのことだったのか、とはっきりした時間意識も特でない。数ヶ月前から、場合によっては、数年前(あるいはそれ以上前)の事柄に関しても使えるようである。

中国語では、相手が何かを(して)くれた場合、その場で十分に礼を述べれば、原則として、日本語の場合のように過去にさかのぼって礼を言う必要はない。再会したあとの話が、たまたま過去のことにはさかのぼった場合には、「それで思い出したが…。」のように言って“噢,对了,你上次真是帮了大忙……”と礼の言い直しをすることはありうるが、決まった表現ではない。

中国人はなぜお礼を言わないのか。前記の『月刊日本語』の「中国人・韓国人の不思議」というコラムに、次のように説明されている。

ご馳走になって感謝はしているし、お礼はその場でちゃんと言っている。つまり、そこで一度完結しているのに、どうして翌日またお礼を言うのか、というのだ。

あるいは、翌日もう一度お礼を言うと、またご馳走してくれと要求するように取られないか、と思うらしい。

実は中国人は、今回はご馳走してくれた、今度いつかご馳走する、あるいは、ほかの形式でお礼を返そうかと思っている。形式ばったお礼の言葉より、具体的な行動を大切にすることが中国人の考えであろうか。

異文化コミュニケーションの場合、中国人が、お世話になった日本人と再会する時に、一言もふれなかったら、日本人はなんとなく物足りないかと感じたり、無視されたと思ったり、場合によっては、不愉快になる人が少なくないであろう。

また、「いつもお世話になっております。」というようなあいさつも、過去への言及であろう。中国語にない習慣なので、中国人として、言えるようになるのも時間が必要であろう。筆者自身も、主人の日本人の同僚や上司に会った場合、日本語では、「主人がいつもお世話になっております。」というあいさつをするということを知っているので、日本式に従うが、幾分無理をしていて、ぎこちなく感じている。いずれにせよ、異文化に適応することは容易ではないようである。

## (2) 日本語では「万歳」もあいさつ

中国語では、何かめでたいことを明示する場合には、“祝”という動詞を使う。近い将来への祈念に対しても使うのである。例えば、“祝贺你”、“祝你生日快乐”という。日本語の「おめでとう」は、中国語の“祝”にあたる。例えば、「お誕生日、おめでとうございます。」など。そのほかに、日本語には、中国語にない祝賀の言葉もある。これは「万歳」という言葉である。

「万歳」は元々は中国で使われた言葉で、一万年で皇帝の寿命を示す言葉であり、皇帝以外には使わない。これが日本に伝わっておめでとう時や嬉しい時、あるいは、幸運が長く続くことを祈る時などに使うようになった。

辞書によると、「万歳」は、日本語で喜びや祝いを表す動作などを指している言葉。動作を表す場合は、「万歳」の語を発しつつ、両腕を上方に向けて伸ばす。また、より強調して「万々歳」と言われる場合もある、というように説明されている。

調べてみると、日本語では次のような祝賀の場面でよく「万歳」が用いられる。

- ・ 忘年会、新年会で
- ・ 開店記念の祝賀パーティーで
- ・ 開業祝いの祝賀会で
- ・ 試合、大会、遠征などの壮行会で
- ・ スポーツ団体・チームの祝勝会で
- ・ 選挙の当選祝いで
- ・ 昔は、新婚旅行に出かけるカップルを駅のホームで万歳三唱で送り出したりもした<sup>⑥</sup>。

中国では、以上の場面で“万岁”とは言わない。

実は、日本でも、以上のような場面では、「万歳」があまり言われなくなる。

そうはいつても、日本では、毎年「天皇誕生日」の一般参賀の時、皇居に来る参賀者たちは、天皇に「天皇陛下万歳」と叫んでいる。“千秋万世、永远存在”の意味ではなくて、「おめでとうございます。」という祝賀の意味である。また、選挙で当選した議員の仲間たちも「万歳」、「万歳」と叫んで祝っている場面はよくテレビで見られるのである。

## 4. 中日両言語のあいさつ言葉の応用実態対照——退勤や退社時のあいさつ言葉

退勤や退社時に、日本人同士が、お互いにねぎらいや感謝の気持ちを表すために、「お疲れ様でした。」や「ご苦労様でした。」というような決まり文句をかけあう。日本人同士なら「どうも。」や同じような言葉で言い返すことで

済む。これについて、文化庁(2006)<sup>⑧</sup>は仕事を終えた時に会社の同僚にどのようなあいさつをするかについて、「お疲れ様」と「ご苦労さま」を併せて、年下から年上に対しては84.3%、年上から年下に対しては89.5%との回答を得ている。もちろん、「お疲れ様」と「ご苦労さま」はどちらを優先的に使うかは企業によるということである。

だが、中国語では、退勤や退社時に「お疲れ様でした。」に相当するぴったりの決まり文句は存在しないので、社交辞令の日本人のあいさつを実際の言葉として受け止めやすい。例えば、中国人なら、「いいえ、疲れません。」とか、「少しだけ。」とかのように、真剣に反応されてしまう恐れが多分にある。あるいは、「当たり前のことだし、お互い様だし、なんでそれを言うのだろうか。」と戸惑う人もいるのである。

仕事を終えて帰る時にどんなあいさつをするかについて、江端など(2006)<sup>⑨</sup>の調査では、日本語には定型のあいさつ表現形式が見られる。それに対して、中国側ではあまり定型のあいさつの表現形式が見られない。すなわち、より具体的な行動や相手への気遣いをする言葉が用いられる、との結果であった。

中国では、そういう場合は

明天见!——明儿见!(また、明日ね。——じゃ、明日ね。)

我走了!——好的。(行ってきます。——はい。)

我得去幼儿园接孩子了。——我也得去接。(子供を幼稚園に引き取りに行かなければ。——わたしも。)

など、人と時によって、さまざまな言い方をする。

## 注釈

- ① 上野恵司(1988)『中国語漫筆——ことばの文化60話』 白帝社
- ② 相原茂(2007)『はじめての中国語「超」入門』 ソフトバンク
- ③ 张韶岩(1997)“对幼儿的招呼语教育中日有异” 日语知识 第10期
- ④ 张韶岩(1999)“日汉语招呼语比较” 日语教学与研究文集
- ⑤ 张韶岩(1999)「あいさつの中日対照とその対照から見るあいさつの変化——命題的と非命題的視点から」 日本学论丛 X
- ⑥ <http://www.jp-guide.net/manner/ha/banzai.html>
- ⑦ 文化庁(2006)『平成17年度国語に関する世論調査日本人の敬語意識』国立印刷局
- ⑧ 江端義元、張磊(2006)「あいさつ表現の中・日比較文化的研究——『労働』でのあいさつを中心に」 広島大学大学院教育学研究科起用第二部第55号



## 第2章 ポライトネスのストラテジー

- ◇ ポライトネスについて中日間に認識差が見られる。中国語では積極的ポライトネスストラテジー、日本語ではネガティブストラテジーが多用されるようである。
- ◇ 中国語では、相手に利益を与える場合には強制的であっても失礼ではないが、日本語では相手に利益を与える場合であっても強制的になると、失礼になってしまう。
- ◇ 私的領域についての認識も日本語と中国語とは異なっている。

